

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習Ⅱ - 1		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
関口 賢人 他	D306	y-sekiguchi	月曜日 16:00～17:00		
授業の目的・概要	臨床現場において理学療法士が対象者の問題点の抽出し、質の高い理学療法プログラムを立案するには、正確な各種検査・測定法の実践能力が不可欠である。理学療法演習Ⅱ-1では、理学療法評価学で学習した各検査・測定項目の習熟を図ることを目的とする。少人数の演習班に分かれて理学療法検査・測定技術の習熟を図る。				
学習上の助言	この授業では、解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎医学分野の知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。				
教科書	理学療法評価学 改訂第6版/著:松澤正、江口勝彦/金原出版 ベッドサイドの神経の診かた 第18版/著:田崎義昭、斉藤佳雄/南山堂 新徒手筋力検査法 第10版/著:Hislop HJ 他/協同医書出版社 ※3冊指定 (必要に応じてプリントを配布する)				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	検査・測定法に対する知識を有し、確実に実施できる。			PT (1)、(4)、(5)	
②	検査・測定によって得た結果の解釈を行なえる。			PT (1)、(4)、(5)	
③	グループ活動に積極的に参加し、意見を述べる事が出来る。			PT (4)、(5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	検査・測定法の概要:症例に適した検査・測定項目、結果の解釈について学ぶ。 担当:関口 (全体)	講義・実技	検査・測定法の概要について復習を行う。	1	
2	バイタルサイン、形態計測の知識の確認と実技練習を行う。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	バイタルサイン、形態計測の実施方法について復習を行う。	1	
3	関節可動域測定 (上肢) の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	関節可動域測定 (上肢) の実施方法について復習を行う。	1	
4	関節可動域測定 (下肢) の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	関節可動域測定 (下肢) の実施方法について復習を行う。	1	
5	徒手筋力検査 (上肢) の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	徒手筋力検査 (上肢) の実施方法について復習を行う。	1	
6	徒手筋力検査 (下肢) の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	徒手筋力検査 (下肢) の実施方法について復習を行う。	1	
7	痛みの検査、知覚検査の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	痛みの検査、知覚検査の実施方法について復習を行う。	1	
8	深部腱反射・病的反射の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	深部腱反射・病的反射の実施方法について復習を行う。	1	
9	筋緊張検査の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	筋緊張検査の実施方法について復習を行う。	1	
10	バランス検査の知識の確認と実技練習を行う。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	バランス検査の実施方法について復習を行う。	1	
11	整形外科疾患検査の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	整形外科疾患検査の実施方法について復習を行う。	1	
12	姿勢反射検査、協調性検査の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	姿勢反射検査、協調性検査の実施方法について復習を行う。	1	
13	片麻痺機能検査の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	片麻痺機能検査の実施方法について復習を行う。	1	
14	脳神経検査の知識の確認と実技練習を行なう。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	脳神経検査の実施方法について復習を行う。	1	
15	高次脳機能検査の知識の確認と実技練習を行う。 担当:※各担当教員 (グループごと)	講義・実技	高次脳機能検査の実施方法について復習を行う。	1	
試	定期試験				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	50	0	0	0	0	50
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。試験内容は、授業中に取り組んだ課題プリントの内容に基づく応用問題を出題し、理解度を問う。				試験結果に関する講評と解説を行う
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>※担当教員:◎関口 賢人、高村 浩司、三科 貴博、粕山 達也、関根 聡美、玉木 徹、駒形 純也、坂本 祐太、遠藤 悠介、大塚 篤也、甘利 貴志、川内 翔平</p> <p>教員の実務経験:運動器系理学療法（徒手理学療法）を中心に、理学療法士として病院、整形外科診療所、スポーツ現場での実務経験あり。</p> <p>実践的授業の内容:病院や介護施設での理学療法士の実務経験を基に、正確な検査・測定技術を身に付けられるように指導を行う。</p> <p>*実技を実施する際は、動きやすい格好で参加すること。</p> <p>*全て対面授業で実施する予定である。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。</p> <p>問題がある場合は面接授業の参加は認めない。</p> <p>今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。</p>							